

2025 年度
自己点検・学校評価報告書

ルーテル学院中学・高等学校

2025 年度 事業計画・教育方針について

1. 2024 年度の状況と 2025 年度に向けての課題

高校について公立高校の定員割れによる本校への入学者予測が困難となっており、90%以上の合格者を出しても入学者が 327 名と定員を少し上回る程度となってしまう。今後受験者母数（特に専願）の増加が必要となってくる。中学については県内 8 校の私立中学全てが定員割れ状態であり、充足率は 2023 年度 69%、2024 年度 66%であった。本校も例外ではなく定員割れが厳しい状態にある。少子化が加速する中でより多く志願してもらえる魅力づくりが必要だと思われる。その一つとして中学定員内に「グローバルコース」を設置し、本学院が持つ英語の力を付ける授業を進めたい。また、学校全体での指導の基礎となるよう「7つの習慣～リーダー・イン・ミー」を取り入れ、キリスト教との親和性を確保しながら共通言語化して生徒の指導に取り組んでいく。

2. 学校の基本目標

- ・「在校生にとって入学して良かった」、「保護者にとって選んで良かった」、「卒業して良かった」、「教職員として働いて良かった」学校を目指す。そのために生徒の「居場所」を設けることと「出番」を与えることに努力する。
- ・「育てたい生徒像」 __『あしたを拓く生徒』 __豊かな人間力と確かな学力
- ・新たにクラブ活動・同好会の活動方針を策定して実行していく。

3. 具体的事業計画

（1）施設計画

① 100 周年に向けて、学院の中心である礼拝堂の整備、体育館の空調整備を最優先課題として取り組み、各教室のエアコンの入れ替え（高校本館は設置後 20 年が経過しており、省エネ対策としても必要不可欠）、教室床面の整地（全体的にデコボコしており、机がぐらついてしまう）や教室ドアのスライド化など、改修に向けて整理し、実行していく。

（2）教学面

① キリスト教教育の充実

- a. 学院標語である「感恩奉仕」に示される建学の精神と教育理念を基にしたキリスト教教育の充実をはかる。
- b. 教職員の教育力向上のため、興味関心に合わせた研修会等を「7つの習慣」を中心として実行していく。場合によってはオンラインも併用する。
- c. 「7つの習慣」を取り入れ、行事や授業・生徒指導・部活動における共通言語として活用し、自分の選択を意識して行動し、自身に与えられた「役割」と「目標」を考え、誰かのために行動し、相手を理解することで自分が理解される人となれるよう生徒を育てていく。教員研修から始めて、探究活動や行事等を通じて浸透させていきたい。
- d. 学年が切り替わる最初の授業期間（特に新中 1 と新高 1）において、シラバスの提示だけでなく、授業の在り方、臨み方、（場合によっては）ノートの取り方など、初期学

習対応に対する生徒の不安の解消に努める。

② 校務運営の充実

- a. 校務支援システム「BLEND」の機能を更に開放する。また、時間短縮のために「デジタル採点システム」の導入を導入していく。→ICT 推進化委員会へ
- b. 教職員間での情報共有と行動連携を測り、組織力を高める。危機管理マニュアルの改訂を必要に合わせて行っていく。
- c. 校務運営の最適化をはかるため、法人とも連携しながら働きやすい環境創りを検討する。

③ 高校新学習指導要領への対応と進路保障・ICT への対応

- a. 新課程における大学入学テストの 2 年目として、大学受験に対する情報収集と変更点をまとめ、高 3 学年団・進路部・教務部と協力しながら準備を行っていく。
- b. 生徒が主体的に活動できる授業を中心とした学習指導（教科指導）を通じ、授業力、担任力などの教師のスキルアップに努力する。
- c. 中高生徒の iPad 活用は継続し、教員は安全に保存されたデータをセキュリティが設定された端末を活用し、情報の共有化、アクセス時間の短縮をはかる。
- d. 高校においてはプロジェクター＋スクリーンを授業で使用しているが、天吊り型の大型モニターへの設置、または黒板レール型の大型ディスプレイの設置を検討していく。
- e. ICT 支援員の導入による授業でのタブレット活用を促進する。

④ 将来の社会を支える生徒の育成

- a. 自己コントロール力・表現力・対応力・忍耐力等の育成に努力する。
- b. 「ルーテル区役所」のように生徒自身に社会の問題に生徒が自ら考えて行動できる力を育むことができる機会を与える。
- c. 他の人たちと協力して課題に立ち向かうコミュニケーション力を育む。

⑤ いじめの防止や特別支援教育の充実と性同一性障害への対応

- a. いじめ事案等には早期発見できるよう適切な対応を図り、またその防止のためにも他への思いやりの心を育てるよう努力する。スクールロイヤー制度も継続して活用し、学内の第三者的存在として生徒・保護者や教員へのアドバイスができる体制を整え、「いじめ防止対策基本方針」の見直しを行う。また、いじめ対策委員会への九州ルーテル学院大学の教員の活用も検討したい。
- b. 発達障害等の特別支援への可能な範囲での組織的取り組みを継続する。不登校等による欠席への早期対応を行い、安易な進路変更とならないよう、SC、SSW、大学教員等を積極的に活用しながら組織的に取り組む。
- c. LGBTQ 対応について以前作成したガイドラインを活用し、学校として可能な範囲で支援していく。

⑥ 生徒募集活動の強化

- a. 高校各コースの教育内容の見直しを行い、生徒の満足度を高める。

- b. オープンスクール等を積極的に行い、受験へつなげる。
- c. Web 出願システムと校務システムが一体化しているため、入学確定後はすぐにクラス編成に移ることが可能となった。
- d. 100 周年に向け、学院全体の教育を協議し、ルーテル学院の特色ある教育に取り組む。
- e. ホームページを刷新し、学校案内との連携や各 SNS との連携を強化し、外部への発信力を高める。
- f. 冒頭にも述べたが、中学の募集定員内に「グローバルコース」を用意し、英語（可能であれば数学か理科も）の授業において日本の学習指導要領に沿いながらもネイティブ教員による英語での取り出し授業を行いたい。

⑦ 国際交流プログラム等の充実

- a. インマヌエル・カレッジ（オーストラリア）・オークグローブ（アメリカ）等との交換留学制度と短期研修の充実を図る。
- b. 上記 a. 以外にもアメリカ・台湾等の高校・大学との連携も検討する。
- c. アメリカ・韓国・台湾・ヨーロッパ等、海外研修旅行の検討を進める。

⑧ 小・中・高・大の連携

- a. 学院内の連携について具体的な教育プログラムへの取り組みを行う。
- b. 必要な情報の交換を行い互いの理解を深めることで高大接続の拡大、強化につなげる。

学校関係者評価について

日時：2025 年 10 月 22 日（水）10 時～12 時

場所：ルーテル学院中学・高等学校

学校関係者評価委員：

日野 正人：保護者・PTA 会長

野島 規子：卒業生・のいばら会会長

佐治 憲彦：黒髪地区・黒髪 12 町内自治会長

洲上 敬介：企業・肥後銀行執行役員支店長

岡村 健太：大学・児童教育専攻 専攻主任

学校参加者：

鶴山校長、野口チャブレン、田仲副校長、矢島高校教頭、永守中学教頭、坂口事務長

※事務・記録担当：古澤課長

内容：

(1)、開会の祈り

(2)、学校関係者評価委委員と学校関係者の紹介

(3)、授業参観・施設見学

中学：「聖書」

担当 野口和音

高校：「新曲視唱・素描Ⅲ」

担当 田川美喜子・石村桂輔・橋本尚

校舎内見学：高校本館、中学校舎、3 号館、美術棟、坂道（工事の進捗）など

(4)、学校の近況および今後について

鶴山校長より近況報告があった。

本年度の入学者について、高校は 327 名となり入学定員を充足できたが、収容定員全体（960 名）としては学則定員を下回っている。一般入試においては歩留まりも読みにくく、合格者の 2 割程度が入学したという状況にある。一方、県の指導により、入学者数が入学定員を超過しないよう十分注意を払わなければいけない状況にある。また、中学校については、入学者数が 51 名となり定員 80 名を大きく下回っているが、県内私立中学校のすべてがここ 3 か年定員割れしていることから、中学校募集活動の難しさを痛感している。

募集活動・広報活動の強化策として、2026 年度入学者から「グローバルコース」を新設した。英語の 4 技能やコミュニケーション力をつけることを前提にした魅力あるコースづくりを行い、九州ルーテル学院インターナショナルスクール小学部に対し併設校推薦入試を行うことで、学院内の連携も期待している。さらに留学制度の充実を狙い、9 月にオークグローブルーテル高校（アメリカ）と正式な協定書を結び、トマス・ジェファソン高校（アメリカ）と新たな交換留学制度を締結するなど、交際交流プログラムの充実に努めている。このほか、中高のホームページリニューアル、総務部の教員による県内全小・中学校訪問により各種イベントの告知、本校の PR に努めた結果、各種説明会への参加者数が増加しており、2026 年度入試につながる事が期待される。

2025 年度の状況について、ここ最近では 2 年生でインフルエンザ感染が拡大し、10 月 23 日（木）まで学年閉鎖となった。本年度は 2 日間の学院祭開催となり、多数の来場者が来たことも影響したと考えるが、25 年ぶりの 2 日間開催を実現させるために生徒たちが準備に取り組み、当日楽しく学院祭を運営していたことが印象深かった。

部活動ではスポーツ・文化系ともに活躍する生徒が増え、全国高校総合体育大会において競泳で 1 名、少林寺拳法で 1 名優勝した。また、全日本ジュニア総合馬術大会で 1 名優勝するなど大きな成果が出ている。2025 年 10 月 24 日（金）には優勝祝賀会を実施する。

100 周年記念事業の進捗について、体育館の空調整備は 2026 年度に実施するよう計画している。また、礼拝堂については座席を修復・研磨するなど 100 周年に向けた施設整備を進めている。また、10 月 10 日（金）には 2026 年に創立 100 周年を迎えるイベントとして行われる記念コンサート内で、卒業生・在校生有志によるハレルヤコーラス大合唱を行ったところである。

（５）、学校評価アンケートの説明

実施した学校評価アンケートの結果について説明を行った。

2024 年度のアンケート結果については、クラブ活動への意欲、ボランティア活動について低調な結果となった。ボランティア活動について、中学生は対象となる活動が少ないこと、高校 1 年生は入学年次ということもあり、活動に目を向ける余裕がないことが推定される。なお、高校 2、3 年次になると大学受験を考えるようになり、ボランティア活動が大学入試における評価対象となることを鑑みて活動に参加する者も増えてきているように感じる。

2025 年度のアンケート実施に向けて、アンケート項目が保護者、教職員で異なり比較しづらい部分があったため、整理・統一し実施したい。

（６）、意見交換

評価委員の皆様から学校への意見や授業参観の様子、学校見学での感想をいただき、それぞれの委員の質問に学校側が答えた。各委員の意見や質問は次のとおり。

- ・来校するたび生徒たちの笑顔の絶えない様子が印象的である。保護者目線では校務支援システム「BLEND」により、欠席連絡への活用、子どもの成績や出席状況がスマートフォン上で確認できるなど、様々な改善が図られていると感じる。
- ・坂道工事に抵抗がある OB・OG も多いが幼児・児童・生徒・学生の安全のため必要なものだと考えている。100 周年事業について、若い世代の寄付に対する意識が薄いようである。若い世代に大同窓会を企画いただくなどして、寄付の呼びかけを行いたい。
- ・礼拝堂は来校された方に非常に好評で、進学を決めるきっかけの一つとなっていると考える。教室等の整備も進めてほしい。
- ・地域住民との連携・交流について、施設借用、地域の清掃、草刈りなどいい関係ができていていると考える。

- ・高校生がお金に関するトラブルに巻き込まれないよう、金融リテラシーの授業を取り入れてはどうか。他校では実施されている例も増えてきている。
ボランティア活動が薄いとのことだが、ルーテル区役所の取組は非常に良いと考える。肥後銀行北熊本支店では秋祭りを開催するが、是非中高生と協力できないかと考える。
- ・九州ルーテル学院大学と高校は様々な連携活動を行っているが、特に教育実習では英語、公民で長期間にわたり指導いただきありがたく思っている。公民は残念ながら今年度で免許取り下げとなるが、引き続きよろしくお願いしたい。
高校における探求学習において大学教員へのインタビュー依頼の窓口を担当しているが、大学のリソースをぜひ活用していただき、連携を深めていけたらと考える。募集活動については大学においても苦慮しており、また収容定員超過による補助金カットも厳格になってきている。
- ・ルーテル区役所の活動について説明したい。先ほどの肥後銀行北熊本支店の秋祭りについて 40 名中高生が参加を予定している。2025 年度の活動について、企業や役所へ出向いてフィールドワークを行っており、菊陽町におけるサツマイモ収穫、TSUTAYA さくらの森での小学生向けのハロウィン工作イベントを実施した。
今後、国際交際交流会館との連携企画や宇城市の高齢者を対象とした企画などを実施検討している。高齢者向けの企画については、「レンタル孫」などユニークな意見もあった。

今後の改善方策

今回、授業参観では中学では「聖書」、高校では「新曲視唱・素描Ⅲ」という芸術コースの音楽・美術の専門科目を見てもらった。委員の先生からは、公立にはない私立らしい授業であると褒めていただいたので、今後も私立らしいルーテル独自の授業をより進めていきたい。

「生徒・保護者アンケート」に関しては、クラブ活動への取り組みとボランティア活動への取り組みの項目が他に比べると少し低くなってしまっている。原因としては様々にあるが、取り組んでいる生徒と取り組んでいない生徒の差が大きいのと感じている。できる限り、それぞれの取り組みがしやすいように環境作りを考えたい。

今後については、次年度は学院創立 100 周年となる。生徒・学校・保護者・地域・大学など関係機関との連携を深めながら、ここまでの歩みを見つめなおし、さらなる発展を図っていきたい。

理事長所見

ルーテル学院中学高等学校では、学校への満足度を高めるという目標を掲げています。具体的には、「在校生にとって入学して良かった」、「保護者にとって選んで良かった」、「卒業して良かった」、「教職員として働いて良かった」と思ってもらえることを目標に、日々生徒と向き合っています。

そのため学院評価委員会では、学校の雰囲気を見てもらうための授業参観や意見交換を行い、学院評価アンケートを実施し、生徒、保護者、教職員からの幅広い意見を求めています。学院としてまだまだ改善すべき点もありますが、25 年ぶりに学院祭を 2 日間開催できたことは生徒会・生徒の意識・意欲の高さの現れですし、部活動で全国優勝者が複数名でるなど大きな成果が出ていることを喜ばしく思っております。また、中学校に新たに「グローバルコース」を新設したり、留学制度の充実を図るなどさらなる魅力づくりができています。

今回頂いた貴重なご意見をしっかりと受け止め、教職員一丸となり、さらなる教育活動の充実につなげていきたいと考えています。

学院の創立 100 周年に向けた取り組みが着々と進んでおり、正門の拡張工事、礼拝堂の椅子のリニューアル工事を着工し、2026 年度には体育館のエアコン新設工事などを行う予定としております。今後も施設設備の充実を図りつつ、学院の学生・生徒・園児ひとりひとりを大切にする教育を実践するために、役職員一同心を一つにして精進したいと考えております。

理事長 内村 公春